

【ペットを飼う時には】 7 月 21 日配信

みなさんこんにちは(*^~*)

突然ですが、お子さんにこんなことを言われたことはありませんか？

「〇〇君の家では、犬を飼ってるんだって！いいなあ。」

「ねえ～、犬飼ってもいい？」

命ある動物を育てるということは、心が豊かに育つということ。とても素敵なことです。ところが、あれほど「ちゃんとお世話するから！」と誓ったはずなのに、結局、親が面倒を見ているということは、よくある話ですね。あれほどはりきってやっていた犬の散歩は、はじめのうちだけで、次第に目もくれなくなっていく……。これでは、子どもの心を豊かに育てるところか、大人の負担が増すばかりです。

ところで、お子さんは、本当に「動物が好き」という理由でペットを飼いたいと言っていたのでしょうか？それとも、単に「友達が飼っているから」ということで、興味を持っただけのことだったのでしょうか？そこをうまく見極めないと、子どもの一時的な感情に流され、ついつい……。ということになってしまいます。ちなみに、一般社団法人「ペットフード協会」の調査によると、ペットの生涯にかかる必要経費は、犬が約 122 万円、猫が約 67 万円するのだそうです。かなりお金がかかるのが現実のようです。

とは言うものの、ペットを飼うことで、その生死を通して命を身近に感じたり、思いやりを持つ心を育んだりできるのは魅力的です。そこで、お子さんがどうしても飼いたいようであれば、犬や猫といったペットをいきなり飼うのではなく、まずは、魚や昆虫、ハムスターといった寿命の短い小動物から飼い始めて様子を見るのも手かもしれませんね。

NPO 法人「子育て学協会」の山本直美会長は、「飼うと決めたなら、必要となる世話を子どもと一緒にリスト化する。生態を学ぶとともに、世話をする動機付けになる。ただ、最初から全ての世話を子どもに任せてハードルを上げてはいけない。できていない、と親が注意するたびに、子どもは、『できない自分』を意識して自信をなくしてしまう」と説明しています。(毎日新聞 H28.6.19 付)例えば、魚の餌やりができるようになったら水槽の水を替えるというように、具体的に子どもが行う内容をひとつひとつ達成させながら、役割を増やしていく方法がいいようですね。

もうすぐ夏休み♪昆虫や魚など生き物に触れる機会も増えることでしょう。お子さんと、生き物を飼う飼わないの話題になった時に、参考にさせていただいたら幸いです。【A】